

れきみんコラム

三春の地域と文化財⑥ 御木沢地区①

御木沢地区は、三春町の北西に位置し、江戸時代の御祭、七草木・平沢の3村が、明治22年に合併し、元の村の「御」「木」「沢」から付いた地名です。

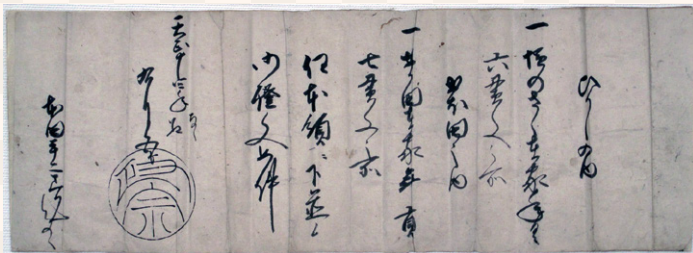
三春地区北西の担橋で八島川を渡ると平沢で、これを西に進むとJR三春駅前を通過して郡山市西田町（旧逢隈村、旧高野村）となります。八島川は、担橋の北50m程度上流で御祭川と分流し、この御祭川を北上すると、御祭、そして七草木と続きます。七草木の北は、本宮市（旧安達郡白岩村）です。また、御祭・七草木の東は要田地区と接しています。

元来、米、麦、葉煙草、養蚕といった農業が盛んな地域で、JR三春駅周辺は、昭和時代に栄町団地が造成され、物流関連の事業所もありました。平成時代以降は駅前よりも広い土地を確保した平沢工業団地や御祭団地などの開発が進み、比較的に安定した人口が維持されている地域です。

御木沢地区では、有形文化財で古文書の平沢文書と有形の民俗文化財である厳島神社奉納祭礼絵馬が町の文化財指定を受けています。

平沢文書は、戦国時代末期の古文書2通で、ひとつは、天正13（1585）年に福聚寺の住職だった定南紹策が、田村義顕の弟とされる田村月斎の求めに応じて書いた書状です。もうひとつは、翌天正14年の知行宛行状と呼ばれるもので、伊達政宗が本田平二左衛門に宛てた安達郡内と思われる領地を保証するものです。田村清顕が急死する直前の時期で、本田氏は田村と伊達両家に仕えていた可能性があります。

御祭の厳島神社は、江戸時代は弁財天を祀っており、その祭礼の様子を描いた絵馬が、文久2（1862）年に奉納されています。幟が建てられた土手の下の鳥居を、4人以上が幕に入っている大きめの獅子がくぐろうとしています。その後、七福神や狐、おかめ、ひょっとこが続き、笛や鼓、三味線、太鼓といった囃子方の大人と踊り子と思われる子どもたち、そして、正装した役人たちが並んでいます。また、土手の下には露店が出て、お詣りや見物に来た大人や子どもたちで賑わっています。



本田平二左衛門宛伊達政宗黒印状(平沢文書)



厳島神社奉納祭礼絵馬

寄附・ボランティアを
していただいた方々

令和8年7月9日

令和8年8月8日

(敬称略・順不同)

【三春町社会福祉協議会へ】

◎寄附

▽寄附金

・東邦三春ゴルフクラブ
・郡山ヤクルト販売(株)
(代) 中原 雅夫

▽物品

・生長の家福島県教化部
・増子 忠一(山田)
・嶋原 徳子(尼ヶ谷)
・大木 正子(蛇沢)

◎ボランティア

・三春町赤十字奉仕団
・伊藤 夏摘(八島台)
・菊地 作夫(実沢)
・國分シヅ子(新町)
・齋藤キミ子(南町)

